

令和5年度 第1回岐阜県地域医療対策協議会（7月27日） の開催結果について

○議題1 第8期岐阜県保健医療計画の策定について

今年度策定する「第8期岐阜県保健医療計画」について、計画策定にかかる検討事項について、各委員からご意見をいただきました。

<主な意見>

- ・ 中山間地域の中小病院は人口減に伴う患者の減少等により、収益が悪化。病院が潰れると他に受け皿がなく、救急や産科、小児科といった政策医療を担う医療機関がなくなってしまう。今後、病院間連携が重要となってくる。
- ・ 医師の働き方改革にて集約化と言われているが、1時間以内に対応しないと助からない命がある。小児医療圏の設定で岐阜圏域・中濃圏域が課題とされているが、東濃、飛騨でも医療提供体制が維持できるか危惧している。

○議題2 第8期（前期）岐阜県医師確保計画について

今年度策定する「医師確保計画」について、適切な目標医師数や必要な取組みについて、各委員からご意見をいただきました。

<主な意見>

- ・ 示された医師数は開業医を含めた医師数だが、重症患者を扱う病院の勤務医を増やすことを目標としていただきたい。現場のどこで危機感を抱いているか県が把握し、それに対して明確なメッセージを出していただきたい。
- ・ 勤務医の中でも、診療科によって偏在がある。どの地域でどの診療科が足りないというところまで県で把握していただきたい。
- ・ 医師偏在指標は極めて重要。東海地方は極めて深刻な医師偏在地域である。
- ・ 女性医師が現場復帰できるように、社会全体でサポートする体制作りが必要。どの診療科も女性が活躍できる環境を作らないと、医療の世界は成り立たない。これは医師だけでなく、看護師も同様。
- ・ 医師偏在は圏域ごとで議論されているが、圏域内での偏在にも目を向けて、きめ細やかなデータを示していただきたい。

- 中山間地域では、開業医が高齢化し継承者がいない。住民の身近な開業医が減るというリスクにさらされている。病院と開業医でどのようにリンクしてやっていくか考えないといけない。
- 中山間地域では、看護師や介護士の確保も大変になってきている。医師に限らず、介護も含めたもう少し幅の広い医療介護人材の確保について、議論を進めていただきたい。
- 岐阜県の医師も岐阜大学医学部地域枠の学生を確保いただき着実に増えているが、他県はもっと増えているので相対的にインパクトが少ない。医師の目標数は全国の下位3分の1を目標にしてよいのか。全国トップを目指すから3分の1で済むということではないのか。